

設 立 趣 旨 書

特定非営利活動法人浜寺諏訪森を考える会
設立代表者 長谷川琢也

1 趣 旨

堺市西区浜寺諏訪森町は旧浜寺町の一部です。古来この地には船尾村があり、また、下石津村もその一角を占めていました。明治時代に鉄道が開通したことと、浜寺の白砂青松の浜辺がもたらす健康的な居住地という適性が認識されて、大正から昭和初期にかけて、この地域は、別荘地や高級住宅地として発展し、商人や企業経営者、学者、官僚などが多く住む地域となりました。

昭和30年代後半の経済成長期に、海浜を埋め立てて臨海工業地が建設され、また、農村が衰退して田畑が住宅地として開発されました。その結果、人口が増え、その多くを都会で働く勤労者が占めるようになりました。それまでの農村文化や船場の文化が影を潜めましたが、それに代わるまちの文化は渾然として、諏訪森らしさが無くなってしまいました。

このような状態を契機として、新しいまちの形をつくろうという動きが出て来ました。自分達の住むまちは自分達がつくる、ここに、そんなまちをつくりたい、そんな思いで、集まった会が、浜寺諏訪森を考える会です。

一方、この町の発展の歴史の中で、諏訪ノ森駅の果たしてきた役割の大きさは計り知れません。この駅は百年近く、まちの発展を見守ってきました。その駅舎は、まちのシンボルです。そこには、もうなくなってしまった浜辺の絵もステンドグラスとなって残されています。

その駅舎が平成18年11月に認可された南海本線(堺市)連続立体交差事業により撤去される事になりました。平成18年から平成20年にかけて、市民ワークショップや保存活用懇話会が開催されました。その結果、平成20年8月に策定された「浜寺公園駅及び諏訪ノ森駅 駅舎活用構想」では、この駅舎が新しく出来る高架駅の近傍に移設され保存活用されることになりました。

浜寺諏訪森を考える会では、この貴重なまちの財産の保存に関与し、それを活動拠点として、新しいまちづくりを推進したいと考えております。この保存活用事業は駅舎の所有者との指定管理委託、あるいはそれに類する協定を結んで実施されます。したがって、当会は、特定非営利活動法人となることにより、協定を結ぶ法人格を保有することと、それが事業の受託者となる要件を満たす証しになると考え、平成26年4月の発足を目途として、特定非営利活動法人設立申請を行うことに致しました。

2 申請に至るまでの経過

南海本線連続立体交差事業に関する市民ワークショップの開催を背景として、平成19年6月に任意団体「諏訪ノ森駅舎（の保存）を考える会」が発足しました。発起に係わった人たちは、浜寺小学校との連携に関わるメンバーやその他有志、自治会関係者でした。

平成21年3月に、駅舎の保存活用を考えるためには浜寺諏訪森全体のランドデザインを視野に入れることが必要、という観点から、会の名称を「浜寺諏訪森を考える会」に変更しました。このとき、堺市まちづくり市民組織の「まちづくりグループ」としての認定を受けております。

諏訪森駅舎の保存活用事業の具体的な活動は、連続立体交差事業の中で駅舎が移転され整備が行われてから開始されます。目下の事業進捗状況では、その時期は平成27年度頃の見込みであり、それまでの期間はさまざまな準備の時期となっております。実際に駅舎をどのように活用するのかを体験し学習するために、平成23年7月から地域内に拠点を開設しました。この拠点は「まちのえき」と命名され、将来の駅舎活用の模擬実験場として利用しております。

現在この「まちのえき」で行っている活動は、会の運営のための会議の他に、文化活動として、読書会、高齢者のための英会話教室、囲碁の入門教室、手話教室、わらじづくり教室などがあります。

また、地域住民が広く参加できるような企画として、小学校や自治会の施設を利用して音楽会や講演会を開催しております。

恒例の企画として、毎年12月に諏訪ノ森駅前クリスマス・イルミネーション・イベントと称して、幼稚園児や保育園児の作品展、地元ミュージシャンの賛助演奏、昔の街の風景写真の映写、飲み物サービスなどを行っています。このほか、地域のイベント、例えば、商店街のフェスタ諏訪森、浜寺公園のローズカーニバル、JCまつりなどの場で、連続立体交差事業の計画などの広報活動を実施しています。

また、月に一回、歩こう会を主催したり、随時各地のステンドグラスの見学会などを実施したりして地域住民の健康づくりと知見の増進に役立てるように努めています。さらに、まちのイメージを広めるために、デザインを凝らしたグッズを製作して頒布しております。

このようにして、会の運営は6年を経過しました。その間に連続立体交差事業も用地買収がほぼ完了し、平成26年度内には本格的な工事が始まります。実際の駅舎の活用時期も平成27年度という見通しになっております。この時期に合わせて受け皿としての会の組織を法人化することは、誠に時期を得たものであります。